

報道関係各位



意欲ある外国人職員への 資格取得を支援

～自己啓発サポート資格取得制度～

大阪府下を中心に岡山県、滋賀県、愛知県、京都府、奈良県に病院、介護老人保健施設、透析クリニック、介護事業所を運営しているホロニクスグループには、医療、介護の現場に7カ国、92名（2021年4月現在）の外国籍の職員が勤務しています。

向上心があり意欲をもって働く職員に対し、グループでは『自己啓発サポート資格取得制度』を通し能力やスキルを向上するためのサポートを行っています。

この度、この支援を利用し看護小規模多機能型居宅介護事業所『かんたき上新庄』（大阪市東淀川区上新庄）に勤務する介護福祉士ラヴィ エンド ラ フィランザさん（出身国：インドネシア 24歳）が運転免許を取得いたしました。

介護の現場で大切な業務のひとつである送迎において必要とする運転免許を取得したいと思ったいきさつや、運転免許を取得してから、実際に送迎業務にあたるまでのホロニクスグループのバックアップ体制を紹介させていただきます。

取材に関するお問い合わせは



広報担当：中内

〒530-0047
大阪市北区西天満4丁目11番23号満電ビル
TEL.06-6312-2151 FAX.06-6312-2257
koho@holonicsystem.com

ホロニクスグループが かんたき介護職員の 運転免許取得を支援

自己啓発サポート資格取得制度

自己啓発サポート資格取得制度とは

意欲のある職員の能力やスキルを向上させるためにサポートする制度。業務に必要な「資格取得」のための費用を「一般財団法人ホロニクス医学健康振興財団」より支援をしています。

※制度利用にあたっては条件があります。



インテリジェントヘルスケア株式会社 『かんたき上新庄』（大阪市東淀川区）

介護福祉士ラヴィ エンドラ フィランザさんが
自己啓発サポート資格取得制度による支援を
受けて運転免許を取得しました

ラヴィ エンドラ フィランザさん
出身国：インドネシア

2014年：来日、日本語学校入学

2015年：介護専門学校入学、介護福祉士取得

2018年：インテリジェントヘルスケア(株)『かんたき住之江』入職

2021年：『かんたき上新庄』勤務

法人による支援を受けて運転免許を取得 された感想をお聞かせください。

2020年11月12日から約2週間の合宿で技能教習と学科教習を修了し本試験をパスして運転免許を取得しました。

看護小規模多機能型居宅介護『かんたき』では、ご利用者の送迎は重要な仕事のひとつです。介護福祉士として『かんたき』で長く勤務していくために運転免許の取得が必要と考えていましたので、法人がサポートしてくれると聞いて本当に嬉しかったです。教習の期間に有給の取得を調整していただいたり、自動車学校の費用を負担いただいたりと、金銭的、時間的な支援がなかったら取得することはまず難しかったです。このシステムがあることを知ったら、車の免許を取って介護の仕事してみようかなと思う人が増えるのではないかなと思います。

運転免許取得後、仕事の幅は どのように広がりましたか？

運転免許取得前はご利用者の送迎添乗業務をしていました。運転ができなかったので運転できる介護スタッフにだけ負担をかけているのでは？と気になっていました。



「かんたき上新庄」のスタッフと一緒にご利用者の介護ができることにやりがいを感じます。これから私も運転をすることで送迎業務がよりスムーズになればうれしいです



ホロニクスグループ「安全・安心」への取組み
送迎運転サービスの平準化をサポート

ホロニクスヘルスケア株式会社
車両・駐車場事業部 係長 前田 成之

病院・施設の送迎ドライバーには安全確保に対する高い意識と技術、接遇マナーが求められます。ラヴィさんのような新規運転免許取得者・ペーパードライバー職員が送迎業務を始めるまでには、路上での運転技術確認に十分な時間をかけなければなりません。指導担当者が同乗し、実際の車両を使用して送迎車の特性や死角の認知ができるようになるまで運転講習を行います。これは意欲ある職員のスキルアップのために必要な支援です。

車両・駐車場事業部は、車両、スキル、接遇マナーなどの送迎サービスを平準化し維持管理をすることによりホロニクスグループの安心・安全を支えています。

安心・安全運転のために

交通事故ゼロに向けてのプロジェクト

ホロニクスヘルスケア（株）車両・駐車場事業部では、以下の取り組みをおこなっています。

AIによる
最適な送迎を
サポート



人工知能（AI）による送迎計画作成支援システムを導入。

『かんたき』全 **13** 事業所、『老健』**3** 施設で経路設定。

ご利用者にとっての最適（最短距離・最短時間）な送迎を提供。



AIソフトによる送迎ルートマップ

ご利用者には、車いす、歩行器、歩行可能な方など様々な介護状況の方がおり、送迎にはその方それぞれの「制約」が生じてきます。AIシステムを導入することで、ご利用者の負担の少ない最適な送迎経路が提示されます。職員においてもご利用者の急な利用変更による送迎ルートの設定に労力を使うことなく、運転・介護業務に力を注ぐことができます。

事故防止の
サポート



「運転適性診断」開催 **1** 年で約 **50** 人が受講

「運転適性診断」は、2019年より年1回運転に携わる職員の中で当事業部が必要と判断した職員が受講しています。「反応の速さとむら」「操作の選択と速さ」「正確なハンドル操作」「複数の課題への注意の配分」など約25分のシミュレーター操作と筆記による「パーソナルチェックリスト」によって運転の適性を判断しています。

運転適性診断



パーソナルチェックリスト



シミュレーターによる運転適性診断

診断結果が即出力される

衝突の回避を
サポート



「自動ブレーキ」搭載 **252** 台中 **97** 台

衝突を察知し、衝突の前に停止または減速させる「自動ブレーキ」装置搭載車への入れ替えを進めています。また、事故に対して映像の記録を残せる「ドライブレコーダー」は、**252** 台中 **163** 台搭載済みです。

運転技術の
サポート



「コーナーセンサー」搭載 **252** 台中 **152** 台

ハイエースなど大きな車は、車体感覚に慣れるまで四隅、死角など分かりにくい為、ブザー音で衝突回避の操作を促す「コーナーセンサー」搭載車へ入れ替えを進めています。

「自動ブレーキ」+「コーナーセンサー」両方搭載 **252** 台中 **84** 台

2021年4月27日現在